

▶ウラジオストクに向う  
県友好代表团一行



# 友好と経済交流の 架け橋に

## 富山ーウラジオストク便本格就航

富山ーウラジオストク便が四月十一日、週二便体制で再開したことを記念し、その就航記念式典が同日、富山空港エプロンで行われました。

式典では中沖知事が「ウラジオストク便の本格就航は、富山県と沿海地方の友好のみならず、環日本海地域の交流に大きく寄与することになる」とあいさつ。引き続きアエロフロート・ロシア国際航空のアレクシー・グリシン富山支店長が「友好と経済交流の架け橋となるよう願っている」と述べました。宝賀副知事の壮行の辞、知事、機長、乗客代表へのミスからの花束贈呈に続いてテープカットが行われ、関係者は就航を祝いました。その後、中沖知事を団長とする富山県ウラジオストク友好代表团五十名が初便でウラジオストクに向かつて飛び立ちました。到着後、友好代表団の代表は、沿海地方政府副知事、文化局長らと懇談。お互いの交流の発展について協議しました。

この本格就航で、富山県が日本におけるロシア沿海地方への窓口としての役割を担うことが期待されます。

